# 自転車で全国行商へ

## 「一人一人に本届けたい」

### 東京の出版社社長 熊本で第一歩

熊本YMCA学院の学生たちに見守られ、リヤカー自転車をこぎ出した白井陸之さん　＝24日午後、熊本市の熊本港

脳性まひの後遺症がある体で創業以来三十五年間、電車やバスに乗って本の行商を続けてきた東京都の「燦々出版社」社長の白井陸之さん(六)が二十四日、自転車での全国行商の一歩を熊本市で踏み出した。自転車はリヤカーと三輪車を組み合わせた特注品。白井さんは完成したばかりの「燦々号」に試乗し、「精魂込めて出版した本を読者に手渡したい」と意欲をみせた。

社長一人、従業員一人の小さな会社で、これまでキリスト教や障害者福祉関連など約三百冊以上を出版。白井さんは全国の学校や書店などを回りながら「リヤカーを引いて、いつか一人一人に直接、本を届けたい」との思いを抱いていた。

昨年、長崎県南島原市の「中村輸業」が、小さい力でも動かせるリヤカー「駑カー」を製作していることを知り、自分用に特別注文。この日、完成品を受け取り、フェリーで熊本港に到着した。

熊本港で、交流のある熊本YMCA学院の学生たちに迎えられた白井さんは早速、熊本市中心部まで約十五キロを走った。

「行商を通していろんな人に出会うことは励みになる。命が続く限りやるつもり」と白井さん。燦々号での全国行商の旅は梅雨明け後に始まる。